

用語の解説

用語解説

[ア行]

◆ 一次エネルギー

石油、石炭、天然ガス等の化石燃料や水力、太陽光、地熱等自然から直接得られるエネルギー資源のこと。

◆ EV

搭載されている電池とモーターを動力源として動く自動車(電気自動車)のこと。地球温暖化の原因とされる二酸化炭素を走行中に排出しないことから、環境に優しい自動車とされる。

◆ EV充電設備

電気自動車の動力源となる電力を、車の外部から専用の充電ケーブルによって、車の電池に充電するための設備のこと。

◆ ESCO事業

ESCO(エスコ)事業とは、事業所などのエネルギー使用者に対し、省エネルギーの提案や機器導入などによる光熱水費等の削減を行い、削減したコストの一部を報酬として受け取るビジネス形態のこと。

◆ エネルギーインフラ

産業や社会生活の基盤として必要となるエネルギー関連施設のこと。

◆ エネルギー地産地消

地域で必要なエネルギーをすべて地域内のエネルギー資源によってまかなうこと。

◆ エネルギー自給率

生活や経済活動に必要な一次エネルギーのうち、自国内(地域内)で確保できる比率のこと。

◆ LED

LEDとは発光ダイオード(Light Emitting Diodes)の略であり、照明、電球、ライト、テレビなど幅広い分野で利用されている。省エネ、長寿命などメリットが多く環境保護、地球温暖化防止の観点からも意味は大きいとされている。

◆ オイルショック

1970年代に2度あった原油価格高騰による経済混乱のこと。石油危機、石油ショックともいわれる。

◆ 温室効果ガス

海や陸など地球の表面から宇宙へ向かう熱エネルギー(赤外線)を閉じ込めて大気の気温を上昇させる性質(温室効果)を持つガスのこと。代表的な温室効果ガスには、二酸化炭素、メタンなどがある。

[カ行]**◆ 革新的エネルギー・環境戦略**

省エネルギー・再生可能エネルギーといったグリーンエネルギーを最大限に引き上げることを通じて、原発依存度を減らし、化石燃料依存度を抑制することを基本方針として政府が打ち出した戦略のこと。平成24年9月14日決定。

◆ 革新的なエネルギー高度利用技術

新エネルギーには含まれないものの、再生可能エネルギーの普及、エネルギー効率の飛躍的向上、エネルギー源の多様化に貢献する新規技術として、その普及を図ることが必要とされるもの。

◆ 化石燃料

石炭、石油、天然ガスなど地中に埋蔵されている燃料のことで、動植物などの死骸が地中に堆積し、長い年月をかけて地圧や地熱により変成されてできたもの。

◆ カーボンニュートラル

排出される二酸化炭素などの温室効果ガスと、植林などで吸収される温室効果ガスの量が同じであること、またその状態のこと。

◆ 火力発電

石油などの燃料を燃やして得られた熱エネルギーを発電設備によって電気エネルギーに変換することで発電を行うこと。

◆ 岐阜県次世代エネルギービジョン

平成17年度策定の岐阜県新エネルギービジョンが見直し時期を迎えたことから、太陽光や小水力等の新エネルギーに加え、燃料電池等の革新的なエネルギー技術の普及促進を図るため岐阜県が取り組むべき施策の方向性をビジョンとして取りまとめたもの。平成23年3月策定。

◆ 原子力発電

核燃料(ウランやプルトニウム)が核分裂反応をする際に発生する大量の熱を利用して水を沸騰させ、そこで発生する蒸気で発電を行うこと。

◆ 原油換算

電気やガソリン、重油、ガスなどの異なるエネルギーや燃料を共通の単位を用いて比較するために、原油の単位量あたりの発熱量を用いて、原油の量に換算すること。

[サ行]**◆ 最終エネルギー消費**

最終的に利用されたエネルギーのこと。つまり一次エネルギー供給から発電や送電時などに発生するロスなどを差し引いたエネルギーの量。

◆ 再生可能エネルギー

資源が枯渇せず繰り返し使え、発電時や熱利用時に地球温暖化の原因となる二酸化炭素をほとんど排出しないエネルギーのこと。

◆ 再生可能エネルギー固定価格買取制度

再生可能エネルギー(太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス)によって発電された電気を、国が定める一定の期間にわたって、国が定める一定の価格で購入することを電気事業者が義務づける制度のこと。

◆ シェールガス

頁岩(けつがん)と呼ばれる堆積岩の層から採取される天然ガスのこと。近年、採掘技術が確立したことにより一気に生産量が増え、世界のエネルギー事情に革命(シェールガス革命)を起こすと期待されている。

◆ 自然エネルギー

今まであまり使用されていなかった太陽の光や熱、風の力などの地域に存在する豊かな自然現象から得られるエネルギーのこと。今まで捨てていた資源(家庭や事業所から出るゴミなど)を利用するリサイクルエネルギーを含め「再生可能エネルギー」ともいわれる。

◆ 省エネルギー

より少ないエネルギー消費量で同様の社会的・経済的効果を得られるようにする取り組みのこと。

◆ 新エネルギー利用等の促進に関する特別措置法

平成9年4月に新エネルギーの導入を加速的に進展させるために制定されたもの。この法律では、新エネルギー利用等を総合的に進めるため、各主体の役割を明確化するとともに、新エネルギー利用等を行う事業者に対する金融上の支援措置等を規定している。

◆ 石油代替エネルギー

太陽光や水力、地熱といった自然エネルギーや原子力、石炭、天然ガスなど、石油の代わりとして利用可能なエネルギーの総称のこと。

[夕行]**◆ 高山市環境基本条例**

豊かで快適な環境の保全及び創造について基本理念を定め、自然と共生しながら、豊かで快適な環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、市民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的に定めたもの。平成7年3月制定。

◆ 高山市環境配慮型公共施設整備指針

公共施設の新築、改築、大規模改修及び既存施設の運営管理において、環境配慮手法を積極的に採用し、CO₂排出量の削減を効果的、着実に推進することを目的に定めたもの。平成24年2月策定。

◆ 高山市地球温暖化対策地域推進計画

温室効果ガスの具体的な削減目標と施策、市民、事業者、行政の各主体の役割を定めたもの。平成22年3月策定。

◆ 地球温暖化

地球温暖化とは、大気中の二酸化炭素(CO₂)などの温室効果ガスの濃度が上昇し、地球の平均気温の上昇や気候変動などが生じること。

◆ 電気自動車(EV)

搭載されている電池とモーターを動力源として動く自動車のこと。地球温暖化の原因とされる二酸化炭素を走行中に排出しないことから、環境に優しい自動車とされる。

[ハ行]**◆ バイオマスエネルギー**

バイオマスエネルギーとは、化石資源を除く、動植物に由来する有機物で、エネルギー源として利用可能なもののこと。バイオマスの原料となる動植物は、その生育過程で大気中の二酸化炭素を吸収しながら成長するため、これらを燃焼させたとしても追加的な二酸化炭素は排出されないことから、「カーボンニュートラル*」なエネルギーとされている。

◆ PHV

PHVとはプラグインハイブリッド自動車の略称。家庭用電源などから充電できるタイプのハイブリッド自動車で、走行時にCO₂や排気ガスを出さない電気自動車のメリットとガソリンエンジンとモーターの併用で遠距離走行ができるハイブリッド自動車の長所を併せ持つ自動車のこと。また、ハイブリッド自動車とはエンジンと電気モーターの2つの動力源を持つ自動車のこと。

◆ ファンド(再生可能エネルギーファンド)

再生可能エネルギー普及のための出資を募り、集めたお金を太陽光発電所やバイオマス発電所等の設備の設置などの事業に投資する仕組みのこと

◆ 分散型供給システム

大規模な発電所などで集中的に発電し送電線などで利用場所へ送電する集中型供給に対し、再生可能エネルギーなどにより地域で必要とされる量を地域でまかなう供給方式のこと。

◆ HEMS・BEMS

HEMSとは家庭用エネルギーマネジメントシステム(Home Energy Management System)の略称で、情報技術(IT)を活用して住宅における電気機器をネットワーク化し、エネルギーの「見える化」や「制御(運転管理)」を行うことでエネルギー消費の効率化を図るシステムのこと。また、BEMSはビルにおける同様のシステムのことをいう(Building Energy Management System)。

◆ ペレットストーブ

ペレットストーブとは、木材工場から排出する樹皮、おが粉、端材などの残材、廃材などを細かい顆粒状まで砕き、それを圧縮して棒状に固めて成形した固形燃料(木質ペレット)を燃料としたストーブのこと。

[マ行]**◆ マッチング制度**

新エネルギー設備の導入を希望しているが設置場所を有していない人と、新エネルギー導入に対して土地を貸し与えてもよいという人を、双方の希望等を踏まえ組み合わせにつなげる制度のこと。

◆ 未利用エネルギー

未利用エネルギーとは、河川水や生活排水等の温度差エネルギーや工場の排熱、雪氷熱といった、今まで利用されていなかったエネルギーの総称。

◆ 民生部門・運輸部門・産業部門

日本のエネルギー消費を3つの部門に区分する考え方で、家庭や職場で直接エネルギーを利用するのが民生部門、ヒトやモノの輸送にエネルギーを利用するのが運輸部門、モノの生産にエネルギーを利用するのが産業部門としている。

◆ メガソーラー

発電出力が1メガワット(1,000kW)以上の規模を有する大規模太陽光発電施設のこと。

◆ メタンハイドレート

天然ガスの一種で、メタンなどの天然ガスが水と結合してできた固体の結晶のこと。現在使用されている化石燃料に変わる未来のエネルギーとして注目されている。

◆ 木質バイオマス

木材からなるバイオマスのことを「木質バイオマス」と呼び、主に、樹木の伐採や造材のときに発生した枝、葉などの林地残材、製材工場などから発生する樹皮などがある。

[ラ行]**◆ ライフライン**

電気、水道、ガス、電話など日常生活に必要な不可欠なシステムのこと。

◆ 林地残材

立木を丸太にする際に出る枝葉や梢端部分、森林外へ搬出されない間伐材等、通常は林地に放置される残材のこと。